

✈ ホームページのご紹介

<http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>



✈ 株主メモ

決算期	毎年3月31日
利益配当	毎決算期現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主又は質権者にお支払いいたします。
中間配当	中間配当を実施する場合は、9月30日の最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主又は質権者にお支払いいたします。
定時株主総会	毎年6月に開催いたします。
基準日	毎年3月31日
	その他必要と認めるときは、予め公告いたします。
公告掲載新聞	東京都において発行する日本経済新聞
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス	http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/kessan/index.html
名義書換代理人	〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 証券代行事務センター 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 03-3323-7111 (代表)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店

 日本空港ビルディング株式会社
Japan Airport Terminal Co., Ltd.

〒144-0041 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号 (東京国際空港内)
TEL: 03-5757-8000 <http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/>

証券コード: 9706



第61期 事業報告書

平成16年4月1日 >>> 平成17年3月31日

日本空港ビルディング株式会社 

昭和28(1953)年、当社は東京国際空港(羽田空港)の旅客ターミナルビルの建設・管理運営を目的として設立されました。
現在、当社グループは、施設管理運営業のほか、免税店などの物品販売業、空港内レストランや機内食製造・販売などの飲食業を展開しております。

CS理念:「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」のもと、
すべてのお客様にご満足いただけるよう、サービスの向上に取り組んでいます。

基本理念

公共性と
企業性の調和

経営方針

旅客ターミナルビルにおける絶対安全の確立
お客様本位(利便性・快適性・機能性)の旅客ターミナルビル運営
安定的かつ効率的な旅客ターミナルビル運営
企業体質の強化及びグループ企業の総合力向上

日本空港ビルデング(株)

グループ会社

施設管理運営業

【保守管理】

- ▶(株)エアポートマックス
清掃、警備等ビル管理業務、園芸管理業務
- ▶日本空港テクノ(株)
空港ターミナル施設等の設備保守管理
- ▶(株)櫻商会
エアポートクリーンセンター、廃棄物処理

【サービス】

- ▶(株)ビッグウイング
旅客案内業、広告・イベントの企画運営
- ▶(株)ヒロインターナショナル
羽田空港内における有料待合室・会議場の運営

物品販売業

- ▶国際協商(株)
全国各空港売店等への一般品・免税品の卸売業及び物品販売
- ▶(株)日本空港ロジテム
ロジスティクス(商品の運送・検品等)
- ▶(株)羽田エアポートエンタープライズ
羽田空港における店舗運営業務
- ▶(株)成田エアポートエンタープライズ
成田空港における店舗運営業務
- ▶(株)浜真
海産物等の卸売業及び小売業
- ▶(株)アイティエス
ゲーム機・遊戯機等の娯楽機械の設置営業

飲食業

- ▶東京エアポートレストラン(株)
羽田空港及び成田空港における飲食店業及び軽食の製造販売
- ▶コスモ企業(株)
成田国際空港内におけるアメリカン航空、ブリティッシュ・エアウェイズ、シンガポール航空、キャセイ航空、チャイナ・エアライン等の外国航空会社への機内食ケータリング、冷凍食品の製造
- ▶(株)アートフーズセンター
サンドイッチ、シューマイ、菓子、弁当の製造及び販売
- ▶(株)シー・ティ・ティ
航空機内用品及び食器類の洗浄
- ▶会館開発(株)
飲食施設の運営、宿泊・ホール・会議室の管理運営

contents



株主の皆さまへ	01
社長インタビュー	02
事業別概況	06
財務ハイライト	07
連結財務諸表	08

単体財務諸表	11
特集	12
お知らせ	15
株式情報	16
会社情報	17

株主の皆さまへ



新しい経営体制のもと
顧客第一主義を
さらに推進してまいります。

代表取締役社長

鷹城 勲



株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび代表取締役社長に就任いたしました鷹城勲でございます。よろしくお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当社第61期の決算(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)のご報告にあたり、ごあいさつ申し上げます。

当社が事業を展開しております航空業界は、前期のSARS流行などの影響により大幅に減少した国際線旅客数は順調に回復したものの、国内線旅客数は数度にわたる大型台風の影響などにより減少し、さらには航空燃料価格に影響を及ぼす原油価格が高値で推移するなど厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、羽田空港第2旅客ターミナルビルを昨年12月1日、無事供用開始いたしました。これも株主の皆さまをはじめ関係者の皆さま方のご協力によるものと感謝申し上げます。

第2旅客ターミナルビルの供用開始を迎えた当期におきましては、さらなる安全対策強化に全力を傾注するとともに、

第1旅客ターミナルビルなどとの一体的運営による効率化とお客様本位のターミナルビル運営をめざし、全社を挙げて一層のサービス向上に努めました。また、業務の活性化と経営の合理化・効率化を図り、社業の発展と経営基盤の強化に努めてまいりました。

その結果、当期の営業収益は、1,114億3千5百万円(前期比15.3%増)、営業利益は、第2旅客ターミナルビル供用開始に伴う一過性の諸費用の増加などにより、66億5千5百万円(同5.9%減)となりました。経常利益は、67億1千万円(同4.4%減)、当期純利益は、38億9千2百万円(同17.3%減)となりました。

次期におきましては、絶対安全の確立のため、引き続き安全対策に全力を傾注するとともに、新体制のもとで、顧客第一主義の徹底、調和のとれた経営、積極的な人材育成を図ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月



PROFILE

青山学院大学卒業。昭和43年4月当社入社。羽田事業所、総務部、営業部、大阪事業所などを経て、平成7年6月取締役就任。平成11年6月常務取締役、平成13年6月専務取締役、平成15年4月代表取締役副社長を経て、平成17年4月代表取締役社長に就任。61歳。

平成16年12月にオープンし、にぎわう第2旅客ターミナルビル



Q 本年4月社長に就任されましたが、これまでどのような仕事を経験されてきたのでしょうか。

A 私は昭和43(1968)年に入社し、最初の3年間は羽田空港で販売を経験しました。店舗で販売を経験したのは、この期間だけでしたが、現場を知ることの重要性をこの3年間で知ることができましたので、とても良い経験をしたと思います。私は「初心忘るべからず」という言葉が好きなのですが、私にとっての初心、つまり原点は、現場にあると考えています。

その後は、主に管理部門といわれる部署をいろいろ経験しましたが、一番印象に残っているのが、平成6(1994)年に総支配人として、大阪事業所(関西国際空港)に赴任した時のことですね。関西国際空港開港に伴い関西国際空港(株)の直営免税店の運営業務を当社が受託し、店舗要員の採用から店舗運営・管理まで任されました。当社にとって、羽田、成田以外への事業展開は初めてでしたから、自分たちの手で作り上げていかなければならず、まさにゼロからのスタートでした。大阪事業所や関西国際空港(株)の皆さんと力を合わせて頑張った結果、大きな成果を挙げることができました。ですから、私にとって、この大阪事業所時代はとても貴重で楽しい経験をさせてもらったと思います。今でも、当時の仲間とは交流がありますよ。

Q 経営方針と重点施策は何ですか。

A 当社は公共性の高い旅客ターミナルビルを建設・管理運営する企業ですので、社会的責任を十分に踏まえて、経営にあたっています。私は最も重要なことは「顧客第一主義」だと考えています。この姿勢を貫きながら、絶対安全の確立やお客様の立場に立った利便性・快適性・機能性の向上をめざしています。それに加えて、グループ企業間の連携を密にして、グループが一体となって機能するような体制を構築したいと考えています。そのために、人材育成を強化するとともに、

Q 人材育成について、もう少し教えてください。

A 私は、企業は「人」を最も大切にすべきだと思っています。企業がお客様に信頼され、成長していくためには、その企業自体が「信頼される人」の集団である必要があると考えているからです。

「信頼される人」とは、仕事の能力と心身の「調和(バランス)」がとれた人です。当社の場合には、空港という限られた世界で過ごす時間が長く、その世界でのこ

Q 経営の最重要課題は何ですか。

A 現在、羽田空港は平成21(2009)年末の完成を目標に4本目の滑走路を整備する再拡張事業が本格化し、それに合わせて国際線旅客ターミナルビ



案内サービスのさらなる向上を図るエアポートコンシェルジェ

グループ間の人材交流を進め、物販を含めた空港内のサービス全体の質をさらに高めたいと思っています。

とが半ば常識化してしまう場合があるのです。そのようなことがないように、今後は積極的に人材育成にも力を入れてまいります。本年4月「日本空港ビルグループ研修・人材センター」を設置し、現在、社内外の有識者による研修等具体的な方針や内容を検討し、早急に実行していきたいと考えております。

ルも整備される計画になっています。この国際線旅客ターミナルビルは、PFI方式により整備されることとなっており、今年から来年にかけて、事業者の選定が



予定されています。当社といたしましては、羽田空港旅客ターミナルビルの管理・運営を担う民間企業として、このPFI事業に主体的な立場で参画し、その目的を達成することが最重要課題であると考えております。

4本目の滑走路が完成しますと大幅な発着容量増となりますので、旅客増に十分対応できる施設の増改修を供用開始までに終える予定です。

第1旅客ターミナルビルにつきましては、第1及び第2旅客ターミナルビルのサービスレベルの均質化を図るべく鋭意リニューアル工事を進めております。また、第2旅客ターミナルビルの第1次増設工事(3スポット増設)につきましては、本年7月施工者選定の後、早急に

着手できるよう鋭意その諸準備を取り進めております。

加えて、当社グループ全体での収益性の向上を図ることも課題であり、昨年7月、羽田空港及び成田国際空港での店舗運営業務をより一層専門的かつ効率的に行なうため、店舗運営子会社を2社設立しました。組織及び人員の効率的配置と人件費の抑制を推進するとともに、高度な専門的知識を持った販売スタッフを育成してまいります。当面は当社店舗の展開に応じた事業展開を行なってまいります。将来的には、当社グループ外への積極的な事業展開を図ってまいりたいと考えております。

* PFI方式：Private Finance Initiative 公共施設等の設計、建設、維持管理、及び運営などに民間の資金やノウハウを活用することにより、効率的で質の高い公共サービスの提供を図るもの。

さて、羽田空港第2旅客ターミナルビルがオープンして、半年が過ぎましたが、

第2旅客ターミナルビルにつきましては、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌などに頻りに紹介され、全国的な話題として取り上げていただきました。オープン当初は、その効果もあり、館内は航空旅客のみならず見学のお客様により大変な賑わいを見せました。現在でも、土日祝日には見学のお客様を多数お見かけいたします。

お客様からはご好評をいただき、当社グループ社員一同は大変うれしく思っておりますが、中には厳しいご指摘などもいただきましたので、早急にハード、ソフト面においてできる限りの対応を施し、お客様本位

のターミナルビル運営を心掛けました。

今後も、館内各所に設置した投書箱の「お客様の声」を積極的に反映し、CS理念「訪れる人に安らぎを、去り行く人にしあわせを」のもと、サービスの向上に努めてまいります。



現在進行中の第1旅客ターミナルビルのリニューアル工事について、教えてください。

第1旅客ターミナルビルのリニューアル工事につきましては、第2旅客ターミナルビルオープンに伴い、両ターミナルビルのサービスレベルの均質化を図るため、昨年6月よりリニューアル工事に着手し、本年度内の完成をめざし、鋭意工事を進めております。昨年12月1日の第2旅客ターミナルビルオープン後、ANAグループが使用しておりました北ウイングの改修工事を直ちに実施し、同年12月21日よりJALグループが新たにチェックインカウンターをオープンいたしました。また、南北ウイング間連絡通路の整備、保安検査場の拡張工事等を実施いたしました。今後は、中央ガレリア(商業施設)部分などの改修工事を計画しております。工事期間中はご利用のお客様にご迷惑を

お掛けしておりますが、生まれ変わる第1旅客ターミナルビルを楽しみにお待ちしております。



リニューアルした第1旅客ターミナルビル北ウイング

株主還元についての考えは。

当社は公共性の高い事業を展開しておりますが、民間企業として株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題と位置づけております。全社一丸となって業績の向上に努めることにより、安定的な配当を継続実施することで、株主の皆さまのご期待に応えてまいりたいと考えております。その一方で、第2旅客ターミナルビル拡張計画、羽田再拡張事業計画等に伴う大規模投資のための内部留保も実施し、将来の

経営基盤を見据えた経営姿勢で臨みたいと考えております。

なお、当期の配当金につきましては、このような方針に基づく普通配当3円50銭に加え、第2旅客ターミナルビルが開業したことを記念し、記念配当3円を行ない、1株につき6円50銭(既に実施済みの中間配当3円50銭を加え年間10円)といたしました。

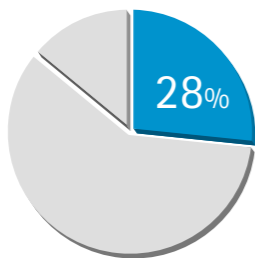


(注)セグメント別の数値はセグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

施設管理運営業



事業別営業収益構成比

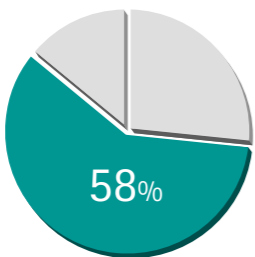


航空会社統合や第2旅客ターミナルビルへの移転により航空会社事務室などに空室が発生したものの、第2旅客ターミナルビルへの新規テナント入居などにより、家賃収入は堅調に推移いたしました。施設利用料収入は、第2旅客ターミナルビル供用開始に伴う国内線施設利用料の増加などにより順調に推移いたしました。その他の収入は、請負工事の増加や有料待合室の利用者増に伴う収入の増加などにより順調に推移いたしました。その結果、営業収益は 324億2千万円(前期比17.2%増)、営業利益は第2旅客ターミナルビル供用開始に伴う一過性の諸経費の増加などにより15億1千8百万円(同55.6%減)となりました。

物品販売業



事業別営業収益構成比

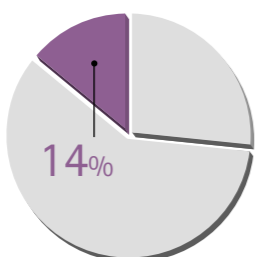


国内線売店につきましては、国内線旅客数が減少する中、新商品や季節感のある商品の積極的な催事販売、テレビ・雑誌などを利用した積極的な販売促進の展開に加え、第2旅客ターミナルビル内に新たに直営店舗を出店し、営業基盤の拡大に努めたことなどにより、売上は順調に推移いたしました。国際線売店につきましては、SARSなどの影響により大幅に減少した国際線旅客数が回復するとともに、一昨年に新設した免税ブランドブティックの通年稼働などによる成田国際空港免税店の売上増、羽田—金浦間国際旅客チャーター便利用者増加による羽田空港免税店の売上増、中国、韓国の旅行代理店などとの提携による訪日外国人旅客への販売促進など積極的な営業展開により、売上は好調に推移いたしました。その結果、営業収益は 670億4千5百万円(前期比15.8%増)、営業利益は75億4千2百万円(同23.3%増)となりました。

飲食業



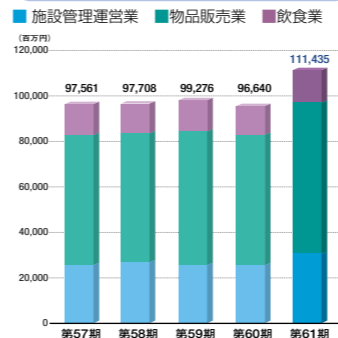
事業別営業収益構成比



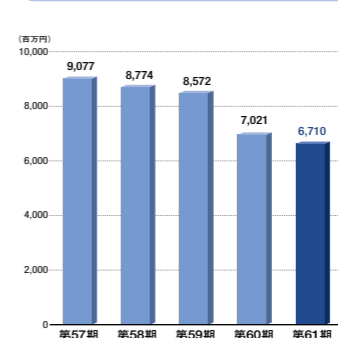
飲食店舗売上につきましては、国内線旅客数の減少と外食における低価格志向や、第1旅客ターミナルビル内店舗リニューアル工事に伴う一時的な閉店など厳しい状況のもとで、第2旅客ターミナルビル内に新たに店舗を出店し、営業基盤の拡大に努めたことなどにより、売上は堅調に推移いたしました。機内食売上につきましては、航空会社のコスト削減などによる影響がありましたが、前期のSARS流行などの影響に伴う減便や運休による大幅な落ち込みから回復を続けたことにより、売上は好調に推移いたしました。その結果、営業収益は 156億4千3百万円(前期比8.8%増)、営業利益は1億2千9百万円となりました。



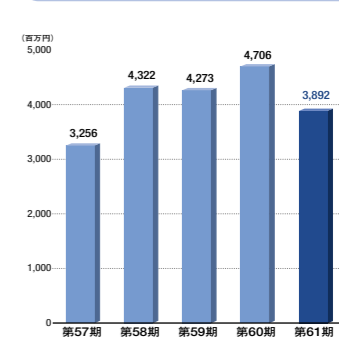
営業収益



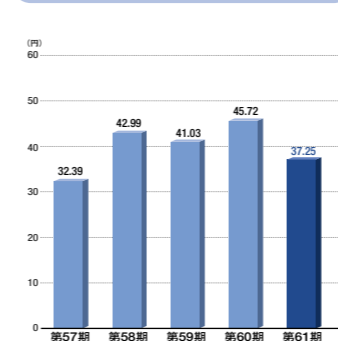
経常利益



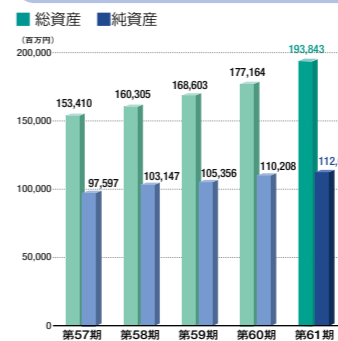
当期純利益



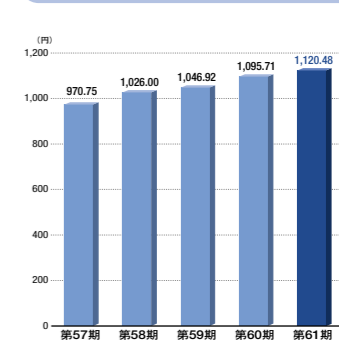
1株当たり当期純利益



総資産/純資産



1株当たり純資産



	第57期	第58期	第59期	第60期	第61期
営業収益 (百万円)	97,561	97,708	99,276	96,640	111,435
経常利益 (百万円)	9,077	8,774	8,572	7,021	6,710
当期純利益 (百万円)	3,256	4,322	4,273	4,706	3,892
1株当たり当期純利益 (円)	32.39	42.99	41.03	45.72	37.25
総資産 (百万円)	153,410	160,305	168,603	177,164	193,843
純資産 (百万円)	97,597	103,147	105,356	110,208	112,699
1株当たり純資産 (円)	970.75	1,026.00	1,046.92	1,095.71	1,120.48

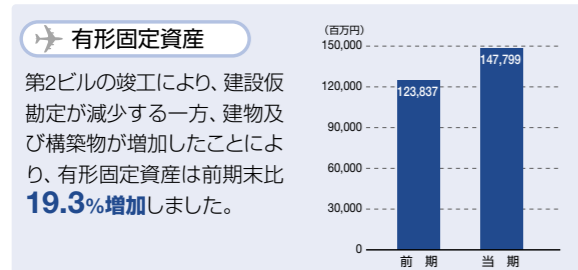


連結貸借対照表(要旨)

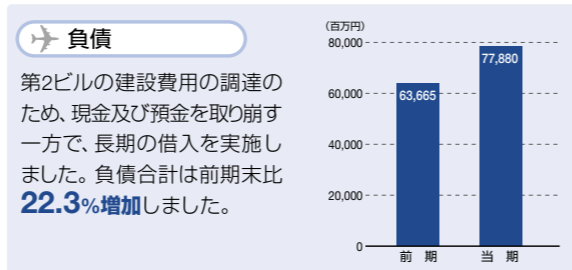
(単位:百万円)

	当期 (平成17年3月31日現在)	前期 (平成16年3月31日現在)	増減		当期 (平成17年3月31日現在)	前期 (平成16年3月31日現在)	増減
[資産の部]				[負債の部]			
流動資産	27,056	35,713	△ 8,656	流動負債	23,598	17,817	5,780
現金及び預金	12,277	25,701	△13,423	買掛金	4,111	3,574	537
売掛金	5,640	3,567	2,072	短期借入金	7,533	3,867	3,665
有価証券	4	1,275	△ 1,270	未払法人税等	1,326	1,153	172
たな卸資産	3,799	3,497	302	その他	10,627	9,221	1,405
繰延税金資産	921	817	103	固定負債	54,281	45,847	8,434
その他	4,419	860	3,558	長期借入金	37,653	28,581	9,072
貸倒引当金	△ 7	△ 7	0	退職給付引当金	9,030	9,355	△ 325
固定資産	166,787	141,451	25,335	その他	7,597	7,909	△ 312
有形固定資産	147,799	123,837	23,961	負債合計	77,880	63,665	14,214
建物及び構築物	125,490	68,634	56,855	[少数株主持分]			
機械装置及び運搬具	2,666	1,379	1,287	少数株主持分	3,264	3,291	△ 27
土地	7,518	7,632	△ 113	[資本の部]			
建設仮勘定	5,201	43,806	△38,605	資本金	17,489	17,489	-
その他	6,921	2,384	4,536	資本剰余金	21,309	21,309	0
無形固定資産	811	230	581	利益剰余金	72,349	69,572	2,777
投資その他の資産	18,176	17,383	793	株式等評価差額金	1,632	1,886	△ 254
投資有価証券	9,706	8,759	946	自己株式	△ 82	△ 50	△ 32
繰延税金資産	5,864	5,729	134	資本合計	112,699	110,208	2,491
その他	2,606	2,894	△ 288	負債・少数株主持分			
資産合計	193,843	177,164	16,678	及び資本合計	193,843	177,164	16,678

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



※第2ビル:第2旅客ターミナルビル

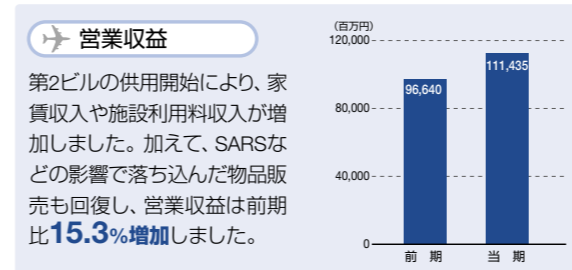


連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当期 [自:平成16年4月1日 至:平成17年3月31日]	前期 [自:平成15年4月1日 至:平成16年3月31日]	増減
[経常損益の部]			
営業収益	111,435	96,640	14,794
営業費用	104,779	89,565	15,214
営業利益	6,655	7,075	△ 420
営業外収益	1,582	1,118	464
営業外費用	1,527	1,171	355
経常利益	6,710	7,021	△ 311
[特別損益の部]			
特別利益	131	3,754	△ 3,623
特別損失	113	1,885	△ 1,772
税金等調整前当期純利益	6,729	8,890	△ 2,161
法人税、住民税及び事業税	2,889	3,202	△ 313
法人税等調整額	△ 63	795	△ 859
少数株主利益	10	185	△ 174
当期純利益	3,892	4,706	△ 813

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

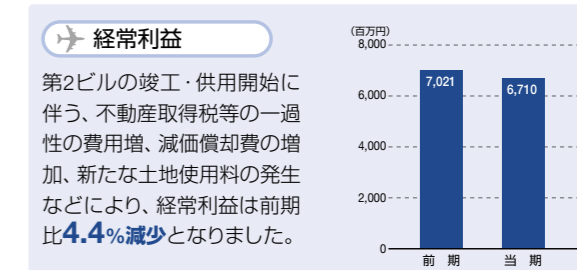


連結剰余金計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当期 [自:平成16年4月1日 至:平成17年3月31日]	前期 [自:平成15年4月1日 至:平成16年3月31日]	増減
[資本剰余金の部]			
資本剰余金期首残高	21,309	21,309	-
資本剰余金増加高	0	-	0
資本剰余金期末残高	21,309	21,309	0
[利益剰余金の部]			
利益剰余金期首残高	69,572	65,709	3,862
利益剰余金増加高	3,892	4,706	△ 813
利益剰余金減少高	1,114	843	271
利益剰余金期末残高	72,349	69,572	2,777

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。





連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

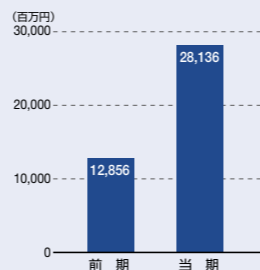
(単位:百万円)

	当期 自:平成16年4月1日 至:平成17年3月31日	前期 自:平成15年4月1日 至:平成16年3月31日	増減
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	8,277	8,885	△ 607
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 28,136	△ 12,856	△ 15,280
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	11,657	6,940	4,717
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△ 0	0
V 現金及び現金同等物の増減額	△ 8,201	2,969	△ 11,170
VI 現金及び現金同等物の期首残高	19,969	17,000	2,969
VII 現金及び現金同等物の期末残高	11,768	19,969	△ 8,201

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

投資活動によるキャッシュ・フロー

第2ビルの竣工に伴う有形固定資産の取得による支出が増加したことなどにより、投資キャッシュ・フローは前期比152億8千万円の支出増となりました。



※第2ビル:第2旅客ターミナルビル



貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	当期 (平成17年3月31日現在)	前期 (平成16年3月31日現在)	増減
【資産の部】			
流動資産	16,267	26,972	△ 10,705
固定資産	157,320	132,214	25,105
有形固定資産	137,724	114,036	23,687
無形固定資産	765	185	579
投資その他の資産	18,830	17,992	838
資産合計	173,587	159,186	14,400
【負債の部】			
流動負債	19,529	15,807	3,721
固定負債	52,242	43,461	8,780
負債合計	71,772	59,269	12,502
【資本の部】			
資本金	17,489	17,489	-
資本剰余金	21,309	21,309	0
利益剰余金	61,525	59,343	2,182
株式等評価差額金	1,565	1,824	△ 259
自己株式	△ 74	△ 50	△ 24
資本合計	101,815	99,917	1,898
負債・資本合計	173,587	159,186	14,400

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	当期 自:平成16年4月1日 至:平成17年3月31日	前期 自:平成15年4月1日 至:平成16年3月31日	増減
【経常損益の部】			
営業収益	86,287	75,421	10,866
営業費用	81,103	68,875	12,228
営業利益	5,183	6,545	△ 1,362
営業外収益	1,559	1,057	502
営業外費用	1,505	1,142	363
経常利益	5,237	6,461	△ 1,223
【特別損益の部】			
特別利益	131	1,478	△ 1,347
特別損失	7	1,666	△ 1,658
税引前当期純利益	5,361	6,273	△ 911
法人税、住民税及び事業税	2,020	2,640	△ 620
法人税等調整額	112	60	52
当期純利益	3,229	3,573	△ 343
前期繰越利益	670	1,144	△ 474
中間配当額	351	351	△ 0
当期末処分利益	3,548	4,366	△ 817

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

(単位:円)

	当期	前期
当期末処分利益	3,548,699,539	4,366,640,696
任意積立金取崩額		
羽田東側施設建設積立金取崩額	20,000,000,000	-
合計	23,548,699,539	4,366,640,696
利益処分額	22,700,330,751	3,696,123,545
利益配当金	652,955,751	653,113,545
取締役賞与金	47,375,000	43,010,000
羽田東側施設建設積立金	2,000,000,000	3,000,000,000
別途積立金	20,000,000,000	-
次期繰越利益	848,368,788	670,517,151

(注)1.平成16年12月7日に351,629,918円(1株につき3円50銭)の中間配当を実施いたしました。
2.利益配当金は、自己株式85,269株分を除いております。
3.羽田東側施設建設積立金は、東京国際空港(羽田)第2旅客ターミナルビルの拡張計画に備えて積み立てるものであります。



訪れる人すべてが楽しめる空港へ 羽田空港第1・第2旅客ターミナルビル

昨年12月オープンした第2旅客ターミナルビル。

リニューアル工事進行中の第1旅客ターミナルビル。

羽田空港は空の玄関だけでなく、訪れるすべてのお客様にお楽しみいただける
新たな観光スポットとして注目されつつあります。



マーケットプレイス(第2旅客ターミナルビル)

にぎわう第2旅客ターミナルビル



年々増え続ける国内航空需要に対応するため、昭和58(1983)年度より東京国際空港(羽田)沖合展開事業が進められてきました。最終段階である第3期計画において、2本の滑走路新設を経て、昨年12月1日、第2旅客ターミナルビルがオープンしました。これにより、当社が管理・運営する羽田空港国内線旅客ターミナルビルは、第1・第2旅客ターミナルビル合わせて約47万㎡と国内最大級となりました。

第2旅客ターミナルビルはオープン以来、テレビ、新聞、雑誌などで取り上げられ話題を呼んでいます。航空旅客のみならず見学者も多く来館され、特に新たな東京の顔となった27の銘店が並ぶ商業施設「マーケットプレイス」は大変なにぎわいを見せています。

海に向かって建つ第2旅客ターミナルビル屋上の展望デッキは、航空機が離着陸する姿を間近に眺められ、



出発ロビー
(第2旅客ターミナルビル)

魅力あふれる 第2旅客ターミナルビル



第2旅客ターミナルビルは、お客様本位の利便性・機能性・快適性を追求した魅力ある施設であり、段差のない通路、通常より幅を広く確保した「動く歩道」の設置や館内各所に多目的トイレを採用するなどバリアフリーにもきめ細かく配慮しています。また、航空保安対策のさらなる強化を図るため出発コンコースと到着コンコースを分け、出発客と到着客の動線を完全に分離した構造になっています。

中央の吹き抜け大空間は、全面ガラス張りでその透明感と明るさをシンボリックに表現、世界を舞台に活躍する日本画家千住博氏のアートも効果的に配置されており、ターミナルビルをご利用のお客様に安らぎを提供しています。



羽田空港限定 「空弁」「空スイーツ」

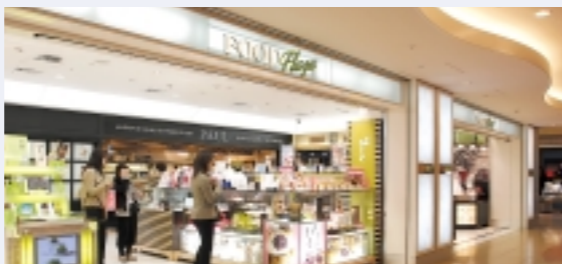


第2旅客ターミナルビルは、商業施設やレストランの充実ぶりも魅力のひとつです。有名店を誘致するなど航空機に搭乗しない人にも1日楽しんでもらえるよう随所に工夫を施してあります。

出発ロビー2階にある「^{そらべんどうぼう}空弁工房」は、人気の空弁(空港弁当)の専門店。都内の高級料亭などが素材や味に知恵を絞った逸品を取りそろえ、連日、売り切れの商品が出るなど注目を集めています。また、マーケットプレイス3階の「^{そら}フードプラザ」は、お客様や有名料理研究家と共同開発した空スイーツなどの羽田空港限定商品を多数取りそろえ、幅広い人気を得ています。



空弁工房(第2旅客ターミナルビル)



フードプラザ(第2旅客ターミナルビル)

リニューアル工事進行中 第1旅客ターミナルビル



第1旅客ターミナルビルは、平成5(1993)年9月のオープン当初からそれまでの空港にはなかったコンセプトの旅客ターミナルビルとして注目されていました。オープンから11年以上が経過したこともあり、今般、第2旅客ターミナルビルのオープンに合わせ、両旅客ターミナルビルにおけるサービスレベルの均質化を図るため、現在大規模なリニューアル工事を進めています。

今回のリニューアル工事では、利便性、快適性の向上が最も重要なポイントであり、中央アトリウムに南北

ウイングを結ぶ連絡通路を新設し、「動く歩道」の設置により、移動の円滑化を図ったほか、搭乗橋の増設、出発保安検査場の改修、空港情報システムの改修、バリアフリー対応、出発・到着コンコース天井照明の改修、完全分煙型喫煙室への改修、旅客トイレの拡張や授乳室の増設などを行ないました。

また、商業施設「ガレリア」の活性化を図る改修工事にも着手いたしました。新たにエスカレーターなどを設置し、お客様の誘引を図るとともに物販、飲食の有名店舗を誘致し、第2旅客ターミナルビル「マーケットプレイス」同様魅力ある施設づくりを実施していきたいと考えております。



旅客施設使用料の導入について

羽田空港国内線ターミナルでは、この度、「旅客施設使用料」を設定することといたしました。この料金は、航空旅客の皆さまが共通にご利用になる施設を整備するための費用等に充当してまいります。お客様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

【旅客施設使用料の概要】

- ①対象となるお客様：羽田空港発着の国内線をご利用のお客様
- ②料金額：大人(満12歳以上)100円、小人(満3歳以上12歳未満)50円
※但し、満3歳未満で小人用航空券を使用する場合は、小人料金を適用
- ③料金の徴収方法：航空旅客が航空券を購入される際に、航空券に含ませて同時に徴収(オンチケット方式)
- ④適用開始日：平成17(2005)年4月1日ご搭乗分より

自動体外式除細動器(AED)の設置について

自動体外式除細動器(AED)とは、重度の不整脈等による心室細動に電気ショックを与えることで正常な心臓の動きに戻す医療機器のことです。緊急患者に迅速に対応できるように、羽田空港旅客ターミナル内に50台のAEDを設置し、救急医療体制の充実を図りました。



ご利用の航空会社により、ターミナルビルが異なります。

第1旅客ターミナル

JALグループ
SKY (スカイマークエアラインズ)
SNA (スカイネットアジア航空)
をご利用の方。



第2旅客ターミナル

ANA
ADO (エア・ドゥ)
をご利用の方。



(平成17年3月31日現在)

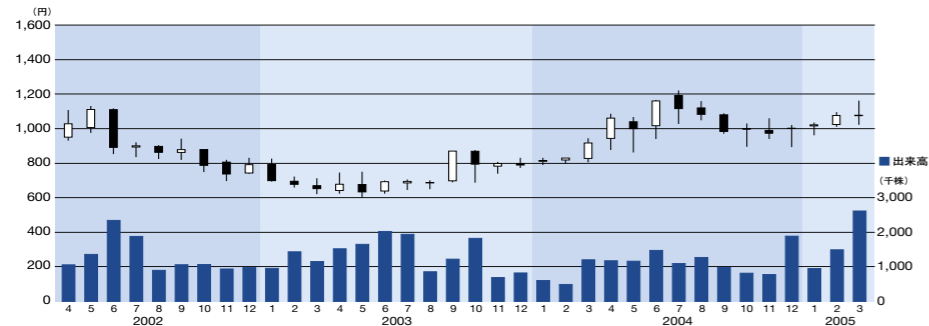
株式の状況

会社が発行する株式の総数 288,000,000株
 発行済株式の総数 100,540,000株
 株主数 4,035名

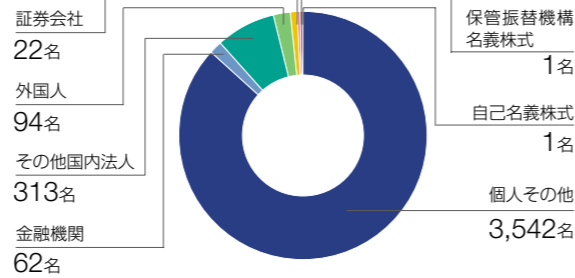
大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
ザ チェース マンハッタンバンク エヌエイ ロンドン	5,447	5.41
株式会社日本航空インターナショナル	5,426	5.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,576	4.55
全日本空輸株式会社	4,398	4.37
株式会社みずほコーポレート銀行	4,036	4.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(住友信託銀行再信託分・京浜急行電鉄株式会社退職給付信託口)	3,484	3.46
三菱地所株式会社	3,111	3.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,995	2.97
大成建設株式会社	2,731	2.71
日本通運株式会社	2,337	2.32

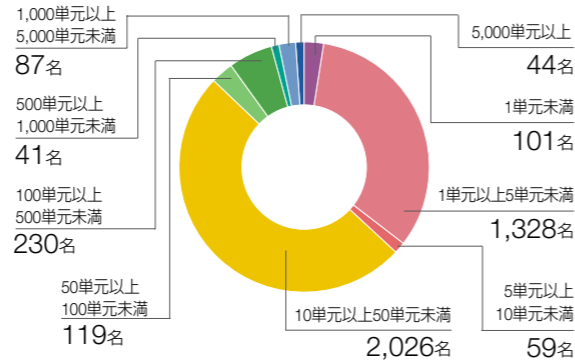
株価チャート



所有者別株主数分布



所有数別株主数分布 (1単元=100株)



(平成17年6月29日現在)

会社概要

商号 日本空港ビルデング株式会社
 Japan Airport Terminal Co., Ltd.
 設立 昭和28年(1953年)7月20日
 資本金 174億8,920万円(東証一部上場)
 事業内容 (1)東京国際空港(羽田)旅客ターミナルビルの建設、管理
 ①航空旅客ターミナル施設、見学送迎施設等の建設、管理
 ②航空運送事業者及び空港構内営業者に対する事務室、店舗、作業場等の賃貸
 (2)物品販売業務
 ①東京国際空港(羽田)旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
 ②成田国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
 ③関西国際空港旅客ターミナルビルにおける物品販売業務
 (3)その他のサービス業務
 ①東京国際空港(羽田)利用者に対する案内業務、駐車場、旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供
 ②成田国際空港利用者に対する旅行傷害保険代理業、ホテルあっせん等のサービスの提供

事業概要

羽田空港



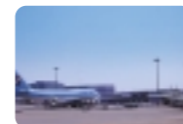
第1旅客ターミナルビル

- ▶ 建物の所有・管理運営
- ▶ 物品販売
- ▶ 不動産賃貸
- ▶ 旅行サービス



第2旅客ターミナルビル

- ▶ 建物の所有・管理運営
- ▶ 物品販売
- ▶ 不動産賃貸
- ▶ 旅行サービス



国際線旅客ターミナルビル

- ▶ 建物の所有・管理運営
- ▶ 物品販売(免税店ほか)
- ▶ 不動産賃貸



駐車場

- ▶ 駐車場の運営管理
- ▶ P1立体駐車場
- ▶ P4平面駐車場
- ▶ P5平面駐車場

役員

代表取締役社長	鷹城 勲	取締役	宮永 千秋
代表取締役副社長	土井 勝二	取締役	小川 洋一
代表取締役副社長	霜田 明彦	取締役	高木文太郎
専務取締役	石黒 正吉	取締役	根本 二郎
専務取締役	小林 久雄	取締役	船曳 寛真
専務取締役	生貝 貢	取締役	小谷 昌
常務取締役	櫻井 正志	取締役	戸矢 博道
常務取締役	山本 兵一	取締役	西塚 英和
常務取締役	鈴木 満	常勤監査役	真貝 和夫
常務取締役	木村耕三郎	常勤監査役	藤波 皖之
取締役相談役	門脇 邦彦	監査役	赤井 文彌
取締役	斎藤 光博	監査役	樋口 公啓
取締役	横田 信秋	監査役	寺澤 則忠

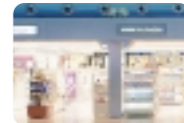
本社及び営業所等

本社 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号(東京国際空港内)
 東京事務所 東京都千代田区大手町二丁目6番2号 日本ビル5階
 羽田営業所 東京都大田区羽田空港三丁目3番2号(東京国際空港内)
 成田営業所 千葉県成田市古込字込前164番地(成田国際空港内)
 大阪営業所 大阪府泉南郡田尻町泉州空港中1番地(関西国際空港内)
 中部営業所 愛知県常滑市栄町一丁目124番地

成田国際空港



- ▶ 物品販売(免税店ほか)
- ▶ 卸売(免税品、一般品)
- ▶ 旅行サービス



- ▶ 免税店運営業務受託
- ▶ 物品販売
- ▶ 卸売

中部国際空港



- ▶ 卸売